

農業

担い手不足の“ピンチ” どう変える



農業従事者の高齢化が進み、飯南町の基幹産業である農業が担い手不足に直面しています。水稲、園芸、畑作物、畜産——農業に関するあらゆる内容の相談窓口となってサポートする「飯南町農業担い手支援センター」の取組を紹介します。

問合せ
飯南町農業担い手支援センター（産業振興課内）
☎76-2214

農業担い手支援センターとは？

「農業」とは切っても切れない関係にある飯南町。しかし、農業従事者数の減少や高齢化の加速により、農業は厳しい状況に置かれています。

平成29年、その課題に対応するため、町は「飯南町農業担い手支援センター」を設置。それまで、島根県雲南事務所農業部やJA、町などが、農業に関する相談にそれぞれ個別にに応じていました。常態化する担い手不足という課題に、広域での連携が必要という判断のもと、各関係機関が一体となって支援を行うべく体制を整えました。

担い手不足に立ち向かうため、作業の省力化・効率化を目的としたスマート農業の導入や、安定収入を確保するなどの取組も進められています。農業従事者と担い手支援センターが連携することで、こうした新たな取組を始める時のノウハウの習得や資金面での支援といった必要な情報をスムーズに共有することができるようになりました。

飯南町の人手不足は どれほど深刻？

高齢化が進みます。進行し、個人での農家経営が限界を迎え始めています。

どんな相談が？

農地の運用自体を集落営農に委託することや、個人ではできない土地の整備や改良を、組織や法人として進めるという地区も。集落営農組織の新規設立や既存の組織を法人化する動きも進んでいます。

ひと口に農業といっても業種は様々。多岐にわたる相談が舞い込みます。

現在、農業大学校に在学中で、将来は飯南町での畜産就農を目指す若者からの相談も。資金面や農地確保の課題もあり、担い手支援センターがサポートする予定です。すぐに独り立ちできるわけではないため、卒業後の数年間を研修にあて、その間に就農に向けた準備をするという計画を立てています。

「農業」どう変わる？

人手不足の中でも、生産性を向上するための省力化に必要な機械や設備の導入資金を補助する「農業省力化投資支援対策事業」を、県が今年度から開始しました。



塚原 誠
主幹

産業振興課で農業振興を担当。自身も地元地区での法人立ち上げを経験し、農作業や事務に携わる。



吉田 政昭
支援専門員

農業技術者として37年間、島根県に在籍。黒大豆の新品種開発など、県内の農業の発展を支援。ノウハウや経験を豊富に持ち、専任の支援員として活動。

採択された事業者は、GPS機能付きの田植え機やトラクターなどを購入。直進アシスト機能が搭載されるなど、作業の精度を高める効果があります。町内でも、新たに導入した機械が春に活躍する予定です。

さらに、人材の確保を目的に、農産物のブランド化・高収益作目の栽培などで、安定した出荷や収益をあげる取組を行う農業者もいます。

飯南町農業担い手 支援センターの取組

● **組織化・法人化の支援**
既存の集落営農組合の法人化や集落営農組織の新規設立をお手伝いします。

● **広域連携支援**
個々の組織だけではなく町内全体で、また、本町だけではなく雲南全域などで、広域での対応が必要な場合には、連携した支援を行います。

● **関係機関との情報共有や連携**
関係機関が集まる連絡会議を定期的に行い、進捗状況の確認や、新たな取組などの情報を共有します。

● **農業者への相談対応**
農業全般にかかわる相談を受付けています。